

## 足立悦男著

### 『研究・文芸研の授業』

著者はこれまで、文芸研に対する研究を重ねてきておられ、共同研究者としても、文芸研の授業に立ち会ってこられていた。本書はその著者が、文芸研の目指す授業を明らかにし、そしてそれを実際の授業場面に即して解説しようとする書である。五つの章によって構成されており、I、II、III、IV章は文芸研の授業場面を多く引用しつつ、実際の文芸研の授業、そしてその授業研究の方法について解説を行っている。V章では西郷竹彦氏との対談を中心に、文芸研及び西郷氏の考える「授業」の、理論的側面について明らかにしている。

本書における授業研究は、西郷文芸学及び文芸研の文芸観と、著者のそれとを融合した文芸観を基盤として、「文芸研理論に学び、それを一つの研究仮説(まえがきより)」として文芸研の授業を明らかにしようとする姿勢で一貫されている。そのため本書の読者は、著者の授業研究の過程を追うことによってそれらの文芸学をも学ぶことができる。文芸研の「授業」そのものについても、著者の文芸研に対する共感的なまなざしを通して明快に検討が加えられ、そして詳述されており、文芸研の考える「授業」を知る上で多くの示唆を与えてくれる。本書は、文芸研の授業研究書としてだけでなく、西郷文芸学と、文芸研の文芸観・授業観とを学ぶ上での格好の入門書としても位置づけることができるのである。

(A5判 一六四ページ 一九九三年八月 明治図書)

一八六〇円

(矢山 仁)